

## 芦屋市健康増進・食育推進計画に関するヒアリングのまとめ

日頃から本市の健康づくり事業に対しご理解ご協力いただいている、関係機関のご担当者に対してヒアリングを実施しました。

ヒアリング 協力機関	芦屋いずみ会 芦屋栄養士会 芦屋市社会福祉協議会（地域福祉推進・在宅サービス担当） 芦屋市民生児童委員協議会 芦屋市老人クラブ連合会 芦屋健康福祉事務所
ヒアリング 方法	事前に提出を依頼したヒアリングシートに基づき、各関係機関へのアンケート回収及び個別に対面によるヒアリングを行いました。
ヒアリング 期間	ヒアリング実施期間： 令和5年6月30日～7月10日

### 1 活動内容や活動課題について

#### 問1 貴団体の活動上の課題について

- ・ 高齢者向けイベントは参加者がロコミで集まるが、こども向けの事業の場合は集まりが悪くなっている。
- ・ ボランティア活動自体が減少している。
- ・ 活動の場が限定され、団体の会員数が増えない。
- ・ 団体の人材が不足している。
- ・ 相談に結びつかない人が増加している。
- ・ 相談件数が年々増加している。
- ・ 相談に来る人の相談内容が深刻化している。
- ・ 地域老人クラブの活動に当たって、活動場所の確保が難しい地域がある。
- ・ 老人クラブの役員を担う人がおらず、クラブがなくなるところもある。
- ・ 新型コロナウイルス感染症流行前は、食育関連で芦屋いずみ会に依頼して料理教室をしていたが、令和2年度から実施していない。
- ・ 自治会と老人会との関係性により、活動状況が変わってくる。
- ・ 情報発信の方法が課題と考える。紙媒体のほうが見てくれるため情報が届きやすい。
- ・ 地域包括支援センターの認知度が低い。
- ・ 集会所が活動する上で使いにくい。

#### 問2 貴団体の活動で、市民の健康づくりの関心向上につながった内容について

- ・ こども向けの調理実習を行うことで、こどもだけでなくその親も参加するため幅広い世代の活動につながる。
- ・ こどもが自ら調理するイベントは人気が高い。
- ・ 老人会では体操教室を実施し、高齢者の会食もある。
- ・ 地区福祉委員会を中心に生きがいデイサービスや高齢者のつどいを開催し、健康体操も取り入れている。
- ・ ファミリー・サポート・センターでも体操などを取り入れている。
- ・ 高齢者訪問事業などでフレイル予防などの啓発を行っている。

- ・ 介護予防教室等を地域に出向いて行い、身近な地域で通いやすく参加できたと好評だった。
- ・ 働く場での栄養士からの講話を依頼されたことがある。
- ・ 待っているだけでなく、出向くことが必要であり、そういう活動をしたい。
- ・ 各事業に参加することが健康づくりに繋がっていると考える。
- ・ 民生児童委員は年に1回、全家庭訪問も行っており、健康状態の確認や心配事などの相談にも応じている。

## 2 芦屋市の健康づくり、連携したい関係機関等

### 問3 芦屋市民の健康づくりの課題について

- ・ 出来合いの食事や塩分の多い食事、野菜不足が心配される。
- ・ 母子家庭の配食サービスが不十分である。
- ・ 栄養に関する教育や講座が必要。
- ・ 学校の給食を通じて食育活動を行うことができる。
- ・ 食の安全性や健康に対する意識の向上が必要。
- ・ 糖尿病患者が増えている。
- ・ 地域の身近な場所での取り組みが必要。
- ・ 出てくることのできない人にもアプローチすることが必要。
- ・ 悩んでいる人に対する相談窓口の設置が必要。
- ・ 自殺予防対策を推進するための情報発信が必要。
- ・ こども食堂の設置や運営が必要。
- ・ 各団体の情報共有が必要。
- ・ 市民の声に耳を傾け、市民とのコミュニケーションを積極的に行う必要がある。
- ・ 参加する世代が限定されているため、若い世代にもアプローチする必要がある。
- ・ みんなが情報を受け取れるような仕組みづくりが必要。
- ・ アンケートやデータの市民へのフィードバックが必要。
- ・ 芦屋市の特徴としても男女ともに飲酒率が高い、LDL 高値という傾向がある。
- ・ 芦屋市は妊娠期の女性の痩せが課題。

### 問4 連携している関係機関と今後連携したい関係機関について

<p><b>【連携している関係機関】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地区福祉委員会</li> <li>・ 高齢者生活支援センター</li> <li>・ こども家庭・保健センター</li> <li>・ 民生委員</li> <li>・ 栄養士会</li> <li>・ 社会福祉協議会内の訪問看護</li> <li>・ 民間企業</li> <li>・ 保健師など医療関係者</li> <li>・ 芦屋大学附属高校や県立芦屋高校のボランティア</li> </ul>	<p><b>【連携内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福祉推進委員、民生委員・児童委員が中心となり、高齢者のつどい、生きがいデイサービスなどを開催している。</li> <li>・ 総合相談において健康や介護サービスなどに関する相談がある場合、高齢者生活支援センターやこども家庭・保健センターと連携している。</li> <li>・ 介護予防教室の開催</li> <li>・ グランドゴルフ大会など大きな大会で支援</li> <li>・ 講師として</li> </ul>
<p><b>【今後連携したい関係機関】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民間企業や中間支援団体</li> </ul>	<p><b>【連携したい理由】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援者が社会資源としてつながりがあることは、困っている人が身近にいることの理解促進につながる。</li> <li>・ 企業にも協力してもらい、人の関心を呼ぶことや目新しいことを実施する。</li> </ul>

### 3 支援上の課題、その他の意見等

#### 問5 制度・支援及び事業のあり方、周知啓発方法の課題について

- ・ 調理能力の育成に力を入れる必要がある。
- ・ 自殺に関する相談に対して、対応のノウハウがなく困っている。
- ・ 障がいのある人向けのヘルパーが子育て世代に入ってくると良い。
- ・ 年齢層に合わせた周知啓発方法が必要。
- ・ 同じような業務を行なう機関同士が連携を取ることで、周知啓発が効率的に行える。
- ・ ケアマネジャーでも栄養の評価ができていないケースが多い。栄養に関して指導可能な社会資源がない。
- ・ 会員は新聞を良く読んでおり、事務局は YouTube など活動を啓発しているが、会員はなかなか見ないことがある。

#### 問6 芦屋市民の健康づくりに効果的だと思われる取組（アイデア）について

- ・ 例えば、定期的な健康診断で国民健康保険の保険料が割引になるなどお得感のある取組。
- ・ 健康だけでなく、地域づくりとも協力して「楽しい・おしゃれ・かっこいい」などのコンセプトで、芦屋市民らしい健康づくりを提案する。
- ・ 企業と協力して先進的なことを取り入れてみては。
- ・ 「訪問栄養指導」というサービスがあれば、頻繁に訪問する必要がある方がいると思う。不適切な生活習慣が根付いているため、1回の指導では何も変わらない。

#### 問7 芦屋市に希望する支援策について

- ・ 健康づくりの場所不足に対する検討。
- ・ フレイル予防に関する市内でのバラバラな動きの問題点と、包括的な取り組みの必要性。
- ・ 市広報誌に老人クラブ連合会の活動記事を載せてほしい。

#### 【総括】

各団体の活動における課題は、会員・活動者が減少していることや、コロナ禍も影響し、活動自体が減少していることである。また、市民から相談を受けている団体では、相談内容が複雑化している傾向もある。

これまでに市民の健康づくりにつながった取り組みは、各団体によって対象とする年代層も内容も様々だが、各事業に参加すること自体が健康づくりにつながっていると考えられている。

芦屋市民の健康づくりの課題として、各団体が取り扱っている分野がそれぞれとなっているため、一概には言えないが、食のバランスが崩れている課題の意見が多くみられた。

今後、市内の支援者同士が社会資源としてつながりがあうことは、困っている人が身近にいることの理解促進につながるなど意見があった。

現在の支援上の課題等として、自殺に関する相談に対して、対応のノウハウがなく困っていることなどの意見もみられた。

今後の芦屋市への取り組みとして、フレイル予防をはじめ市内で取り組んでいるものの活動自体にバラツキがあることから、様々な活動を対象者、内容も含めて包括的な取り組みの実施が求められている。